令和４年度

教員資格及び教育内容等の自己評価書報告

令和５年７月31日

＜　理学療法学科　＞

医療福祉専門学校緑生館

様式３

理学療法学科　教員資格及び教育内容等の自己評価書

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	副　校長	学科長	副学科長	専任教員	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
理学療法学科	１人	１人	１人	４人	８人	６人	８人	０人	38 人	16.6 人	2022 年度在籍数 139 人

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	社会心理学	30	田中豊治	兼任
		社会福祉学	30	鬼崎信好	兼任
		地域福祉論	30	鬼崎信好	兼任
		老人福祉論	30	鬼崎信好	兼任
		生涯教育論	30	溝内亮佑	兼任
		心理学	60	津田彰/吉良晴子	兼任
		教育学	60	佐藤洋希	兼任
		統計学	30	中村博和	兼任
		くらしとマルチメディア	30	中島道夫	兼任
		体育１	45	坂元瑞貴/大川裕行/藤井洋恵	兼任
		体育２	45	坂元瑞貴/藤井洋恵	兼任
		英語１	30	木原　誠	兼任
		英語２	30	内山美枝子/山炭春香/坂本飛鳥	専任/兼任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学１	45	嵯峨　堅	兼任
		解剖学２	45	太田啓介/嵯峨堅	兼任
		解剖学実習１	45	田平陽子	兼任

		解剖学実習２	45	田平陽子	兼任
		生理学１	30	山炭春香・木下佳祐	専任
		生理学２	30	鶴崎政志	兼任
		生理学３	30	鶴崎政志	兼任
		生理学実習	45	政所和也/他	専任
		運動力学総論	30	北島保子	専任
		運動学	45	北島保子	専任
		運動学実習	45	政所和也	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	30	濱田信之	兼任
		臨床心理学	30	津田彰/吉良晴子	兼任
		内科学１	30	藤田有加	専任
		内科学２	30	熊川恵子/井﨑義己/川﨑隆	兼任
		整形外科学１	30	國分裕一	専任
		整形外科学２	30	國分裕一	専任
		神経内科学１	30	木下佳祐	専任
		神経内科学２	30	木下佳祐	専任
		精神医学	45	増本政也・中野慎也	兼任
		人間発達学	30	新田博司	兼任
		画像読影	15	星原正則	兼任
	保健福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	30	高森真須美	専任
		リハビリテーション医学	30	浅見豊子	兼任
専門分野	基礎理学療法学	理学療法士・作業療法士論	30	藤田有加・石田真由	専任
		理学療法概論	30	高森真須美	専任
		理学療法概論実習１	45	高森真須美/高木雄作	専任
		理学療法概論実習２	45	藤田有加・岡孝二	専任/兼任
		臨床能力演習１	30	木下佳祐・他	専任
		臨床能力演習２	30	木下佳祐・他	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	30	高森真須美	専任
	理学療法評価学	理学療法評価学	45	山炭春香	専任

		理学療法評価学実習 1	45	山炭春香	専任
		理学療法評価学実習 2	45	山炭春香	専任
		理学療法疾患別評価学	30	藤田有加/北島保子/山炭春香/他	専任
		臨床運動学	30	竹井和人	専任
	理学療法治療学	運動療法学	45	政所和也	専任
		運動療法学実習	45	政所和也	専任
		物理療法学 1	30	政所和也	専任
		物理療法学 2	30	政所和也	専任
		日常生活活動学	30	竹井和人	専任
		日常生活活動学実習	45	竹井和人	専任
		義肢装具学	30	國分裕一	専任
		運動器障害系理学療法学 1	30	北島保子	専任
		運動器障害系理学療法学 2	45	北島保子	専任
		内部障害系理学療法学 1	30	藤田有加	専任
		内部障害系理学療法学 2	30	福島竜也/吉竹陽介	兼任
		神経障害系理学療法学 1	30	高森真須美	専任
		神経障害系理学療法学 2	30	高森真須美	専任
		理学療法プロセス 1	45	國分裕一	専任
		理学療法プロセス 2	45	國分裕一	専任
		小児理学療法学	30	渡部雄一	兼任
		臨床動作分析学	30	木下佳祐/弓岡光徳	専任/兼任
		臨床理学療法学	45	中林紘二・吉村恵三	兼任
	地域理学療法学	地域リハビリテーション	30	倉富眞/大川内直木/美濃光・他	兼任
		生活環境学	30	原口　考	兼任

	臨床実習	臨床実習Ⅰ	40	臨床実習指導者	兼任
		地域リハビリテーション実習	40	臨床実習指導者	兼任
		臨床実習Ⅱ	240	臨床実習指導者	兼任
		臨床実習Ⅲ	720	臨床実習指導者	兼任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療施設の見学	１年後期	理学療法作業療法士論	１年前期
		理学療法概論	１年前期
通所リハビリテーションの見学	２年後期	リハビリテーション概論	２年前期
医療施設等での評価	４年前期	理学療法評価学	
医療施設での実践	４年後期	理学療法プロセス１・２	３年前期・後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	FD 委員会
委員名（委員長）	竹井和人・國分裕一（高森真須美）
組織の開催頻度	１年に４回
組織の取り組み内容	・ 学生による授業評価の分析
	・ 授業参観の企画
	・ 教育力・指導力紅葉のための研修会の開催企画
自己点検・評価結果の公表	ＨＰで公表（URL：https://www.ryokuseikan.ac.jp ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	役職者会議（カリキュラム検討会議）
	委員構成等	理学療法学科：高森真須美（副校長）、竹井和人（学科長）、政所和也（副学科長） 作業療法学科：島ノ江寿（学科長）、熊谷隆史（副学科長）
	改善の仕組みの実際	厚生労働省指定規則改正や、教授手法の変遷等に伴いカリキュラムおよびシラバス全体の改正を行っている。 役職者会議にて教育目標達成のための方向性や枠組みを定め、具体的内容については理学療法学科・作業療法学科合同教員会議にて決定している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価及び第三者評価、ＦＤ委員会等により明らかになった課題は、内容に応じて役職者会議、理学療法学科・作業療法学科合同教員会議、理学療法学科会議にて対応を検討している。